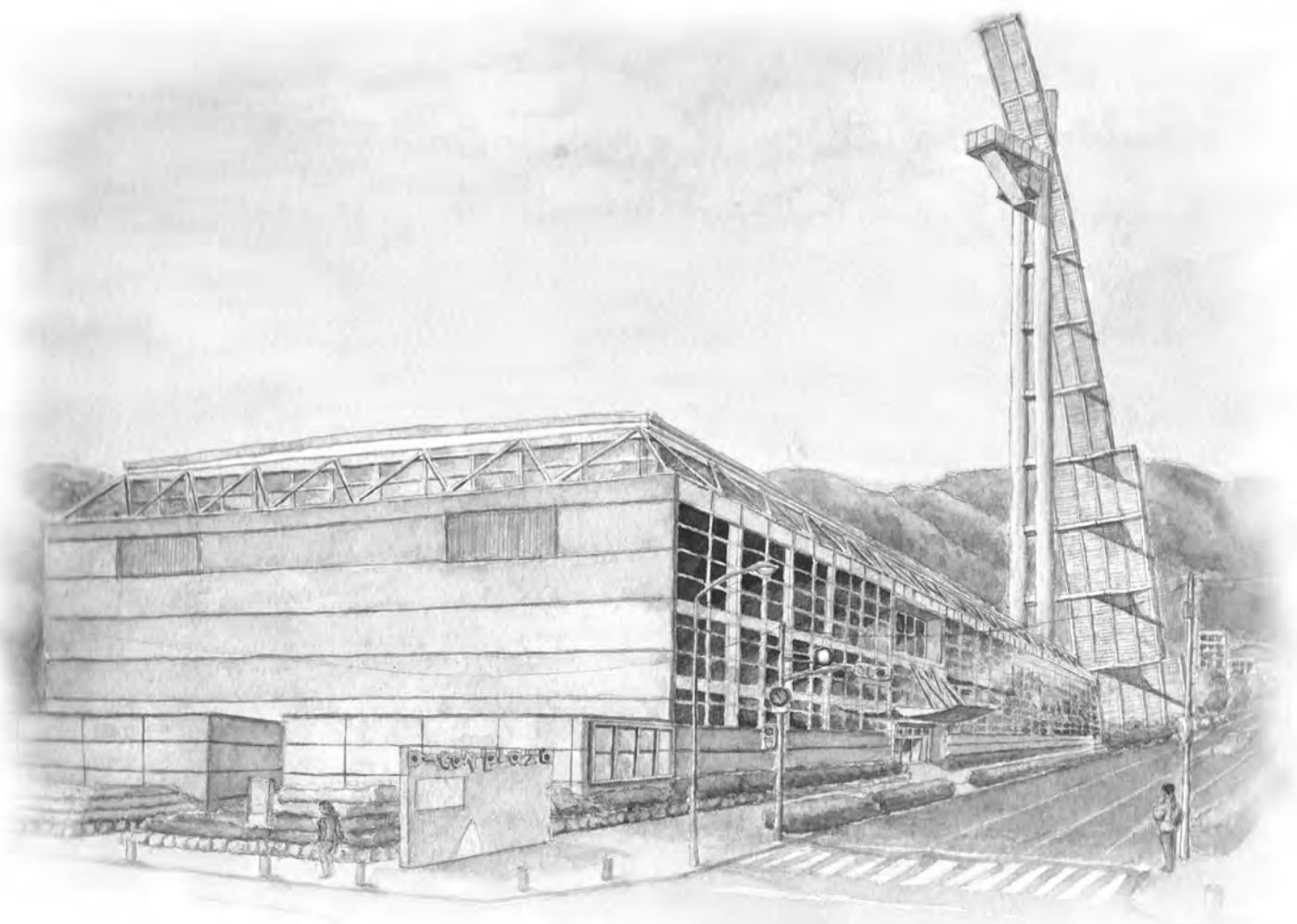


建築士

おおた

秋季号

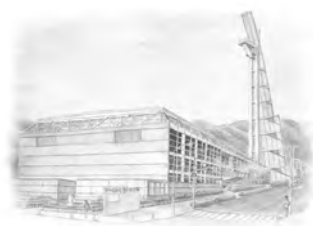
2024 NO 133



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

01 新役員挨拶	副 会 長	近藤 正一
02 新支部長挨拶	宇 佐 支 部	西胤 和弘
	竹 田 支 部	田島 薫
	佐 伯 支 部	富松 誠
03 公益事業の成果	佐 賀 関 支 部	渡邊 豊基
	高 田 支 部	末宗 魁人
	大 分 支 部	高橋 大介
	玖 珠 支 部	瀧石 雅一
07 九州ブロック 建築士の集い宮崎大会に参加して	臼 杵 支 部	山下 駄偉
	大 分 支 部	江崎 志保
	佐 伯 支 部	河野 功寛
11 全国青年委員長会議参加報告	大 分 支 部	甲斐 啓大
13 建築士の模型展開催報告	宇 佐 支 部	椋田 康一
15 大入島オルレに参加して	大 分 支 部	久野 緑朗
17 我が街の建築士紹介	玖 珠 支 部	木村 友希
	日 田 支 部	久恒 玄季
	高 田 支 部	荒川 司
	宇 佐 支 部	辛島 大輝
18 第9回おおいた建築セミナーin玖珠のご案内	玖 珠 支 部	後藤 聖和
20 インフォメーション(支部便り)	大 分 支 部	川端 大輝
	臼 杵 支 部	合澤 浩司
	津 久 見 支 部	金只 昌平
	日 田 支 部	吉田 正浩
	別 府 支 部	中原 健
25 マイワーク	大 分 支 部	後藤 宏之
	別 府 支 部	今橋 周作
	大 分 支 部	松田 周作
	別 府 支 部	小山 秀輝
28 マイベストブック	豊後大野支 部	工藤 健治
	津 久 見 支 部	大村 正壽
	佐 伯 支 部	井上 一則
	竹 田 支 部	山浦 一光
30 近況トピックス	宇 佐 支 部	光井 智
	竹 田 支 部	阿南 克俊
32 マーゴの旅先日記	顧 問	井上 正文
35 事務局だより	大 分 県 建 築 士 会 事 務 局	



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

ビーコンプラザ

作者：大分支部 板井 利世

新役員挨拶



大分県建築士会 副会長

近藤 正 一

会員の皆さま、こんにちは。この度、副会長に選任されました近藤です。日頃は日本文理大学で建築学科の教員をしています。ちまたではしばしば「都市計画がご専門の～」と紹介されますが、専門分野は建築計画学で、むしろ"空間"に関する活動がメインであると自分では思っており、日本インテリア学会・日本インテリア設計士協会・インテリアプランナー協会等インテリア系のグループに所属し、大学でも「住居・インテリアデザインコース」を担当しています。

出身は愛知県で、平成13年（2001年）3月までは名古屋工業大学で教員をしていました。日本文理大学に赴任後、故 鈴木義弘 前副会長よりお誘いをいただき大分県建築士会に入会しました。しばらくの間はただ入っているだけという感じだったのですが、建築士会全国大会（大分大会）で式典部会メンバーの一員として大会準備のお手伝いをさせていただく機会を得て、多くの方と知り合い、それに合わせて建築士会の面白さを意識するようになりました。その後、徐々に能動的に関わる機会が増えてきて役職をお預かりすることになり、現在に至ります。

先ほど「建築士会の面白さ」と書きました。そうです。建築士会は面白いのです。ふつう、人は生活を営む自宅（ファースト・プレイス）と職場や学校（セカンド・プレイス）との間を行き来して人生の大半を過ごしています。もちろん、自宅にも職場にもそれぞれのコミュニティがあり、楽しみややり甲斐も感じられるのですが、より創造的な交流が生まれ人生を豊かにするもう一つの場所（サード・プレイス）を得たと思ったから、建築士会が面白いと感じたのです。

では、逆に多くの方にとって魅力的なサード・プレイスであるためには、どうあらねばならないかを考えていくと、建築士会の未来が見えてきます。アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグ氏の言説を参考にして私なりにまとめてみますと、①自由（思想や立場に縛られない）、②平等（年齢や職によらない）、③遊び心（楽しい会話にあふれている）、④健全（オープンで集まりやすい雰囲気）、⑤魅力的（新しい参加者を惹きつける）の5項目を心掛けていくことではないかと思えます。

これからも会員の皆さまとのコミュニケーションを通じて自らの役割を果たしつつ、携わる事業を一つ一つ楽しみながら有意義なものとなるよう尽力していきたいという姿勢に変わりはありません。その結果として様々な分野で活躍する建築士のつながりが広がっていき、大分県における建築文化の発展につながったら素晴らしいと思えます。これからも、どうぞよろしく願いいたします。

新支部長挨拶



宇佐支部 西 胤 和 弘

人口減少の日本社会、福岡市の人口が大分県全体の人口より、はるかに多いのが現実で、宇佐市の人口も5万人を割りそうな状況です。いろいろな職業、団体活動がますます厳しくなるのは、明らかであり、建築士会宇佐支部の活動も同様です。

今年の支部総会で支部長に選任されましたが、年齢が60代後半になり、支部長としてどうなのか、疑問符はつきませんが、若い支部会員の皆さんの力を借りて、支部活動を取り組めます。

支部長としての期間は、次の世代に引継ぐための期間ととらえ、若い会員の皆さんに積極的な支部活動の参画に努めてもらうつもりです。人口減少に比例して、支部活動も厳しい時代に突入していますが、支部存続のための魅力的な活動がないか検討中です。

次の宇佐支部を担う若い世代に「橋渡しをするための期間」ではありますが、結果として、何もできない期間で終わるかもしれませんが、皆様ご協力よろしくお願ひします。



竹田支部 田 島 薫

今年度の竹田支部の総会で選任された田島薫と申します。会員歴50年近くになりますがこれからは世話をされる人から、お世話する方に徹したいと思っています。

支部長挨拶に代え自己紹介をさせていただきます。

出身地：大分市 年齢：73歳

高 校：県立鶴崎工業高等学校建築課

大 学：大分工業大学建築科

職 業：後藤組、大工手元、県庁、NEXCO西日本

県 庁：竹田、中津、宇佐、玖珠、別府（兼国東）、佐伯、三重、大分、臼杵の各土木事務所、警察、理財課、工事検査室、県立芸短大

誇 り：阪神淡路大震災の1週間後に関西汽船で中津市の建築士の仲間3人で応急危険度判定士として神戸市東灘区で体験したこと（ボランティア元年）

：5年前県士会のボーリングで個人優勝

以上自己紹介でした。竹田の支部長として誇れる足跡を残すためにこれから頑張っていきます。ご支援ご協力をお願いします。



佐伯支部 富 松 誠

本年より佐伯支部長を務めさせて頂くことになりました。建築士会に加入してから20年以上が過ぎ、支部長を務める年齢になっていたことに戸惑いながらも責務を全うしていこうと心掛けております。昨年コロナも落ち着き、支部活動を再開できるようになり佐伯支部は、『折り紙建築』『木工ワークショップ』の取り組みを復活いたしました。この取組は地域密着型の活動であり地元の子供から大人、高齢者と幅広い年齢層との交流が出来ることで多くの人に建築士会を認識して頂ける場と認識しています。この場から地元の住民、建築士会、地場の工務店、地場の業者の大きな輪の活動にしていけたらと思っております。支部の活動も諸先輩方が作り上げてきた『年齢関係なく、みんなで盛り上げて行ける支部』のムードを引継いで楽しみながら頑張っていこうと思います。

若輩者ですがどうぞ宜しくお願い致します。

令和5年度 公益事業の成果

佐賀 関支部

佐賀関支部 渡邊 豊 基

令和5年度の佐賀関支部の公益事業は、平成26年度に同じく公益事業にて設置した「海舟・龍馬が来関した時代の屋号看板」の修復活動として、佐賀関ボランティアガイド協会と協同しての活動としました。

まずは、以前設置した看板の傷み具合の調査を実施し、1基が全腐朽、17基が一部腐朽若しくは、塗装のはがれを確認しました。

全腐朽の1基については、設置個所の環境を考慮し、新規製作にあたり、木材に防腐剤を圧入した材料を調達し、再設置後の腐朽対策としました。

修復作業の実施日は、年度末ぎりぎりの令和6年3月31日。事業年度の最終日！



しかしながら、支部会員5名とボラガイド1名の参加で、手際よく作業を進めました。

活動に参加した会員の職種は、建具、大工、ゼネコン、行政等の多岐にわたっていますが、日ごろから鍛えた職人の技を見事に披露し、あっという間に修復していきます。

行政職の小生は、材料運び程度の軽作業。

しかも、まちなかでの作業であったことから、行き交う顔見知りの市民とあいさつがてら声掛けし、井戸端会議にまで発展し手伝いどころか、みんなの足を引っ張ってしまいました。(笑)

でも、我々の公益活動をしっかりと周知することと、建築士会が地域のまちづくりに積極的に関与していることを理解していただくことが出来ました。

修復作業の最後は、佐賀関の誇れる「早吸日女神社」の案内看板です。朱の扉に、修復再設置した看板が良く映えます。

さて、令和6年度の公益事業は、活動場所を馬場の磯崎神社に隣接する「ダイオンジ沼ビオトープ」の再生活動を企図しており、大分の新たな景勝地の創生を目指して頑張ります。



令和5年度 公益事業の成果

高田支部

高田支部 末宗 魁人

高田支部では、豊後高田市内の工務店5社が集まった「きぐみの会」と合同で、毎年7月頃に豊後高田市内の小学生（4・5・6年生）を対象に木工教室を開催して多くの小学生が参加してくれます。今年は12人が参加しました。



事業内容としては、「家づくりの大工さんってどんなお仕事をしているの?」「どんな道具を使っているの?」など、普通に過ごしているだけではなかなか知ることができないことを学んでもらうことと、昨年度からSDGsへの取り組みとして建築現場から出る端材を使用して、自分の好きなものを作るワークショップとなっています。

実際に木工教室の冒頭に、小規模の家の構造部の組立を実演し、家がどのように造られ、大工さんが



直接どのような仕事をしているのか説明し、上棟まで体験してもらい参加した小学生に自分達の住んでいる家について学んでもらいました。

次に、材料を選んで自分が作りたいものを形にしていき、掲載している写真のようにそれぞれ創意あふれる作品が出来上がりました。大きさや材料のつなげ方など、分からないことはその都度きぐみの会の大工さんに質問をしたり、道具の使い方を教えてもらいながら思い思いの作品を完成させ、ものづくりを楽しんでくれているようでした。



毎年参加者から「参加してとても楽しく学べた。」と好評を頂いており、今後も好奇心旺盛な小学生（高学年）を対象として活動を続けていきます。

令和5年度 公益事業の成果

大 分 支 部

大分支部 高橋 大 介

【建築写真の撮り方講座】

日 時 令和6年2月17日（土）

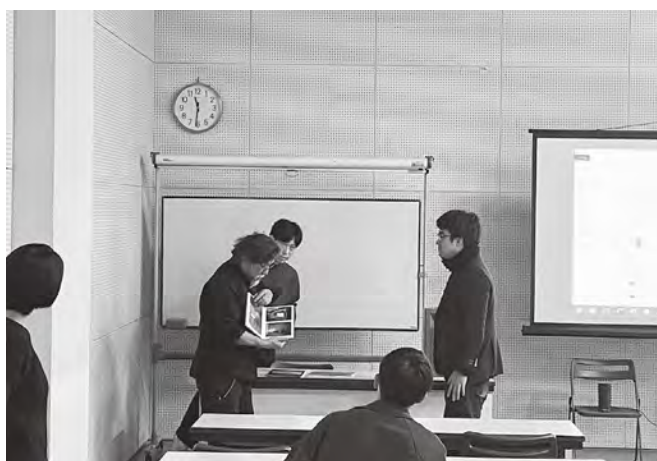
10：00～12：00

場 所 アートプラザ2階研修室

参加人数 11名



昨年に引き続きアートプラザをお借りして、「建築写真の撮り方講座」を開催しました。今回も講師として写真家で映像作家の藤原次郎先生をお招きして、建築写真がうまく撮れるテクニックをレクチャーしていただきました。



撮影のポイントは「何を伝えるのか」「水平、垂直の構図の意識」「修正の余地を取る」とのこと。難しく考えず、最後は写真加工アプリで修正しても良いので、気軽にとにかくシャッターを切ることが大事と教えて下さいました。

後半は事前に参加者から建築写真についての悩みを募集し、それについて一つ一つ丁寧にご回答い

ただく形で講座を進めていただきました。参加者の写真を加工アプリで修正していただき、「Before-After」を解説いただきました。自身で撮った写真が少し手を加えるだけで、全く違った印象になりました。



最後に藤原氏が自主制作した「神奈川県立近代美術館（坂倉準三設計）」の映像を鑑賞させていただきました。

講座完了後はアートプラザ1階のレストランでランチミーティングを行いました。食事中も自分の撮った写真を講評いただいたり、アドバイスを頂きながら活発に意見交換を行い、楽しい時間となりました。写真を撮る時には、光の当たり方で表情や印象が変わることもレクチャーしていただきました。



2025年問題に関するセミナー

玖珠支部 瀧石 雅一

2025年4月から省エネ基準適合義務化されるにあたり、玖珠支部は事前知識と対応策を備えるために士会員や地場の工務店さん他関係業者さん多数参加のもと2月11日に公益事業として省エネ法改正セミナーを行いました。講師に、日頃より業務として取り組まれている株式会社日熱さんに当日の資料から説明までの全てを担って頂きました。

講演の最後に質疑があり、応答はして頂けたのですが、後日フローチャートと質問に対する詳細な回答とお金に関する一番気になっていた情報をメールで送付してもらいました。

今の基準に適合させるためには断熱性能・気密性

能・外壁の性能向上が求められる。伝統工法が基準から外され技術の継承が途絶えることが危惧される。ここは11月の玖珠の建築セミナーでも扱っていききたい話題の一つでもあります。

最近の傾向として環境問題を持ち出してエコだと突き進むが、機能性・利便性・合理性のみにシフトするのではなく、日本各地の気候・風土など適材適所に沿った方法があるのではと考えさせられました。

また業務が増えてしまいますが、来たる2025年の省エネ基準適合義務化に備えたい。

かく云う私の仕事は舗装屋です。縁があるとか無いとかいうのは内緒でお願いします。



〔九州ブロック〕

建築士の集い宮崎大会参加報告

臼杵支部 山下 駄 偉

6月22日（土）に宮崎県都城市で開催された、「建築士の集い」宮崎大会に参加をしました。

今回は大分県建築士会の地域実践活動の発表が臼杵支部の担当であったため、臼杵支部の青年部がメインとなって発表者の応援をしようと、若手が多く参加しました。



当日は早朝6時半に出発し、途中でゲリラ豪雨に見舞われることもありましたが無事に会場周辺に到着することができました。宮崎県といえば「チキン南蛮」ということで、会場近くの人気と聞いていたお店で美味しいお昼を食べ、会場入りしました。

今回はまず分科会があり、私は分科会7木材技術見学コースに行きました。会場は宮崎県木材利用技術センターで、CLT関係の分科会になるのだろうと思っていましたが、MLTという宮崎オリジナルのCLTと似た小規模建築物向けの材料について知識を深めることができました。勉強会の後にはセンター敷地内の各施設の見学会をさせていただきました。



臼杵で大工として建築業に携わっている私は、このセンターでの取り組みがとても興味深く、材料の製造だけでなく、耐力壁の破壊実験や、白蟻に関する研究、木構造の相談（構造計算等）などなど、木材に関することがこのセンター1つで賄うことができるという点です。県としてこのような取り組みをしていることにとっても感銘を受けましたし、地元大分でもどの様な取り組みがなされているのかとても気になりました。

引き続き、地域実践活動の発表です。



私自身初めての集い参加でしたが、想像以上に多くの方が参加し、活気のある大会に圧倒されました。この雰囲気の中で発表する臼杵支部会員の足立さんと板井さんは、さぞかし緊張するだろうな…と思いながら発表会を見届けました。内容は、去年の竹宵で使用した竹ほんぼりを如何に2次利用するかを検討し、竹炭を作ってみようとなり、地域の子供たちと出来上がったもので、ものづくりに挑戦というものでした。惜しくも全国大会行きはなりませんでしたが、各県代表者の発表に刺激を受けました。

宮崎での集いは、支部の方々のおかげで楽しく多くのことを学ばせていただきました。今後もできる限り参加し、建築士の方々と交流しながら自身のスキルアップを図りたいと思います。

〔九州ブロック〕

建築士の集い みやざき大会に参加して

大分支部 江崎志保

令和6年6月22日の前夜祭含め、23日に行われた建築士の集いみやざき大会に参加しました。

6月22日11時、他の参加者4名と車を乗り合わせて大分を出発し、延岡の「直ちゃん」でランチ、日向駅や日向市役所を散策しながら都城市に到着しました。

18時より九州ブロック青年・女性建築士協議会の前夜祭が催され、4月に行われた熊本会議以来の再会を喜んだり、初対面の方と名刺・情報交換をしつつ、楽しい夜を過ごしました。（宮崎支部の方に「延岡でのメはラーメンではなく、うどんだ」との情報を得て、深夜のうどんに舌鼓をうちました。）



九プロ会議の様子



日向市役所

翌日、8時にホテルロビーに集合し、大雨の為タクシーを乗り合わせて（都城市に20台しかないタクシーのうち、2台利用）会場近くのパン屋さんで朝食をとり、9時から九プロ会議に出席しました。

会議では11月に開催される全国大会in鹿児島の内容や会員増強・情報発信等について話し合いました。前夜祭での交流の成果もあり、和気あいあいとした雰囲気で見聞を交わすことができました。

午後より研究集会在開催され、大分県は臼杵市のイベント「うすき竹宵」に使用した竹の活用を通じて地域への還元や地域の人たちとの繋がりを構築するといった内容の地域実践活動について発表がありました。個人的には1位だったのですが、残念ながら鹿児島県が1位となりました。



前夜祭の様子



研究集会の様子



研究集会の様子：臼杵の発表

分科会では9つの見学コースが用意され、私は「宮崎県木材技術センター」を見学しました。床・壁・天井・サッシ等あらゆる箇所に贅沢に木材が使用されている建物で、白蟻の実験、木材の温度・湿度管理による影響を調べる実験などの部屋がありました。センターが休日ということで中に入ることはできませんでしたが、また機会があれば実験室の様子も見学してみたいです。



宮崎県木材技術センター内

19時より都城市まちなか広場にて意見交換会が開催されました。中央にはステージが生まれ、宮崎士会の方々による音楽演奏やミニゲームが催されました。会の最後には生演奏による「糸」をみんなで合唱しお開きとなりました。その後、二次会・三次会を経て、各県の垣根を超えた交流を楽しむことができました。



交流会の様子



交流会の様子：大分支部挨拶

今回、建築士の集いに初めて参加したのですが、九州の建築士たちが一つになれる場所という印象を受け、感動しました。初対面の方が多い中、どなたも気さくに接してくださり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。この感動は癖になりそうです。建築士の集いに参加したことがない方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度、味わってみてください！みなさんのご参加、お待ちしております。

〔九州ブロック〕

「建築士の集い・宮崎大会」に参加して

佐伯支部 河野功寛

6月22日に開催された令和6年度の九州ブロック研究集会「建築士の集い・宮崎大会in都城市」に参加させていただきました。建築士の集いに参加させていただくのは、おそらく6年ぶりでしたのと、今年度から佐伯支部青年部長や大分県青年女性委員会副委員長という役割をいただいていたので、今までと違ったポジションで新鮮な集いとなりました。

大会前日に前入りさせていただき、夕方時間までは、都城市立図書館から西都城駅近辺にかけてのエリアを気の向くままに散策。リノベーションや建て替えが進むエリアと、かつての繁栄を感じつつも遊休地の増加を感じるエリアが存在し、まちの規模は違えど佐伯市とどこか重ね合わせながら足を進めました。最終的に地域の銭湯に辿りつき、お風呂とサウナでコンディションを整えて、青年・女性建築士協議会の懇親会に参加させていただき、ひとりいち早く整っていたことを白状します。(笑)

翌日は朝から青年・女性建築士協議会運営委員会に出席。運営報告や次年度開催に向けての協議、各部会に分かれての意見交換を行い、歴代の委員を担ってくださっていた諸先輩方の尽力に感謝を感じ

つつ、参加させていただきました。

午後から本大会が始まり、分科会・全体会と参加させていただき、分科会では旧ショッピングセンターをリノベーションして運用されている都城市立図書館Mall mallの見学コースに参加。用途の異なる施設の運用であるため、一般的な図書館では見られない空間や諸室の活用、そこでの多様な活動の発生、それを許容するゾーニングとマネジメントに勉強させられる点ばかりの施設見学でした。

隣接するホテルに宿泊していたのですが、朝開館前になると学生世代をはじめとした人々が多く集まってきている姿が印象的で市民に愛される施設なのだなと感じました。地域実践活動発表では大分代表を務められた臼杵支部の皆様、ご苦労様でした。結果は残念でしたが、活動の思いや意義が伝わる素敵なプレゼンテーションだったと思います。

夜の意見交換会(懇親会)では、初めての県外の方や久しぶりの県内の建築士の方々と交流させていただき、建築士の集いの醍醐味を満喫させていただきました。

ご参加されました皆様、大変お疲れ様でした。



令和5年度 青年委員長会議

大支部 甲 斐 啓 大

令和6年3月16日・17日に宮城県仙台市で開催された全国青年委員長会議に参加しました。

大会のテーマは「備える」。

1日目の現地視察では、東日本大震災で甚大な被害を受けた女川町を訪れて官民連携によるまちづくりの現状を学び、2日目の講演会では、地方で活躍する建築家から有事に備えた建築の役割や防災対策の重要性について話を聞きました。

前日の3月15日には仙台入りし、せんだいメディアテークのバックヤードツアーに参加しました。このツアーでは震災時の被害状況や建物の構造についての解説があり、特に法規の解決や施工の工夫に改めて注目しました。建物内の照明デザインにも工夫が施されており、最近のLED化で新築時の海のコンセプトを復元された青い照明が特徴的でした。

その後、仙台市内の寿司と日本酒を楽しむ前夜祭に参加し、約30人の参加者と交流しました。東北の美味しい魚や日本酒を堪能し、仙台の街を歩きながら地元の食文化に触れるなど、有意義な時間を過ごしました。



1日目の3月16日は大型バスで女川町を訪れ、震災復興の現地視察を行いました。女川町総務課公民連携室の青山室長から、震災後の復興まちづくりに関する講演があり、FRK（女川町復興連絡協議会）の迅速な設立や、民間主導による官民連携の成功事例を学びました。特に「還暦以上は口出すな」をその世代の方自身がかかげて、30～40代に未来を託すという若者主体の復興が印象的でした。

また、津波対策としてのひな壇造成や、町の持続

可能な経営の工夫など、具体的な取り組みについても詳細な説明がありました。女川駅周辺のまちづくりも視察し、海が見える景観を保つための防波堤の代替策などを確認しました。復興とはその道のりを通じて地方の新しい価値や可能性を生み出すこと、という言葉が強く心に残っています。

帰りのバス内で能登半島地震の現状について、石川県建築士会の西和人氏から報告を受け、液状化の被害や応急危険度判定の状況について学びました。西氏は、現地での建物相談会やクラウドファンディングの取り組みについても共有しました。

夜には懇親会が開かれ、全国から集まった参加者と交流を深め、二次会では仙台の繁華街を訪れました。



2日目の3月17日、せんだいメディアテークにて地方で活躍する3名の建築家が「建築における木構造の可能性と地域資源の活用」というテーマで講演、ディスカッションを行いました。

1. はりゅうウッドスタジオ 滑田氏の講演

滑田氏は、東日本大震災後の木構造の可能性について講演され、2011年にJIA福島で600戸の仮設住宅をログハウス工法で迅速に設計・施工した事例を紹介しました。ログハウス工法は部品数が少なく、地域の山材を使用し、熟練した技能者でなくても施工できるメリットがあります。また、材料の再利用が容易で、実際に2019年には200戸が他地域や外国に移転再利用されました。

滑田氏はさらに、縦ログ工法の歩みについても説明し、南会津の「みなみあいづ森ときの」プロジェクトなど、地域材料を活用した建築事例を紹介されていました。

2. 艸(そう)建築工房 横島氏の講演

横島氏は、設計事務所が既存のビジネスであることを問題定義し、プロポーザルの要項のもと前に社会問題があるのではないかと、社会問題に向き合うことの重要性を説きました。特に、高知県でのCLT（工法を用いた小学校や保育所の事例を挙げ、地域材の積極的な活用や、設計事務所単体ではできない課題解決の話を行いました。

例えば、高知学園大学の新校舎では、CLTの間に弾性ゴムを挟むことで音対策を施すなど、工夫が施された設計が行われました。また、コレモクでは木ルーバーを災害時の仮設ブースに転用する取り組みも紹介されました。

3. M.DESIGN ASSOCIATES一級建築士事務所 山本氏の講演

山本氏は、長門市本庁舎の設計について、木造とRC造のハイブリッド構造を採用し、市の8割は森林である為、地域の森林資源を活用することに重点を置かれていました。また、長門市の文化や技術とのコラボレーションを取り入れていて、萩焼きの陶版タイルや長門産土壁など、庁舎内外に地域の特色を取り入れた設計が特徴的でした。

また、建築士会の活動として、木工教室や版築ワークショップを通じて地域の子供たちと交流し、地域の伝統技術を伝承する取り組みが紹介されました。

4. クロストーク

クロストークでは、木構造の可能性について話が盛り上がり、木質化が地域経済に与える影響や、地方の活性化につながる事が話題となりました。



2日間の会議を通じて、地域ごとの新しい取り組みを学ぶ良い機会となりました。また、全国の青年委員長と交流する貴重な機会となり、有事の際に迅速な連携を図るための関係作りができ、文字通り「備える」ことができました。



建築士の模型展に寄せて

宇佐支部 椛田 康 一

建築士が行う設計業務は、ある一定の図面を作成することで完了となりますが、実際に模型まで制作しないと気が済まない建築士が結構いるのでは？そのような話が別府支部の役員会議の中で上がり、美術部3名で「建築士の絵画展の次は模型展をやろう」ということになりました。

「作品も結構集まる!!」その勢いでアートプラザを予約し、建築士会美術部監修で、別府、宇佐、高田の3支部合同の事業として3月6日（水）から3月17日（日）の12日間開催され、507名の方ご来場いただきました。

模型は50点展示され、その種類は大きく5つに分類されます。

① 姫島と襟江亭

国東半島の景観調査の一環で制作した姫島の模型は、国土地理院の地図の等高線から高さを、ゼンリンの地図から道路や建築物の情報を読み取り、細部まで正確に表現しました。

この模型は、『九州まちづくり塾in姫島』の講演で非常に役に立ち、一時的に天一根（ジオパーク拠点施設）でも展示されました。

また、歴史的建築物の保存活動の中で制作した襟江亭の模型も展示され、当時の様子が伺える作品となりました。



姫島村の模型

② 宇佐海軍航空隊と回天大神訓練基地

現在、その一部が残る2つの戦争遺産の復元模型を展示しました。

現存する写真等の資料を基に、まずは基地内の建築物や構造物の立面図を作成し、その後1/700スケールでレーザーカッターによる壁面、屋根の型紙を作成し、着色、組み立て後に全体の配置を行っています。

宇佐海軍航空隊については、その他1/350施設群や掩体壕等の模型も展示しました。

宇佐海軍航空隊の建築物の調査は、宇佐市からの委託事業として、平成29年度から実施しました。

その成果品として復元模型を制作し、一般の方に広く公開しています。

これらの模型を制作した趣旨は、「当時どうしてこのような建築物を造らなければならなかったのか」そして「二度とこのような建築物を造ってはいけない」という2つのメッセージをこの模型を通して伝えることにあります。



宇佐海軍航空隊の模型

③ まちなみ模型

まちなみ模型として、大分市戸次本町、宇佐市門前町、宇佐市長洲地区の模型を展示しました。

来館者の中には、「私の実家は戸次で、子供の頃はよくこの辺りで遊んでいました。」と模型を指差しながら懐かしそうにお話される方もいらっしゃいました。

また、長洲のまちなみ模型（5mm角程度）を見て、「これは私の実家で父が住んでいます。」と嬉しそうにお話される方もいらっしゃいました。

模型には、人を感動させる力があるということを実感したところです。

④ 個人住宅と公共建築物

建築士会会員で、模型制作をする方々に出品を依頼した結果、私を含め幸さん、合澤さん、金只さんの4名から計36の個人住宅の模型を、西胤さんから公共建築物の模型を出品していただきました。

それぞれが精巧かつ個性的な模型で、多くの方が興味深く見ていました。



個人住宅の模型

⑤ 折り紙建築その他

建築士会の活動の中でも折り紙建築については、多くの支部で行われ、子供達に感動を与えてきたものだと思います。

今回の模型展では、別府支部に依頼して、約20種類の作品とサンプルを制作していただきました。

これはとても好評で、用意していたサンプルは数日でなくなってしまいました。

期間中の土曜日に、東京の工学院大学の学生が来場され、模型について説明をさせていただきました。

来年度は4年生で、現在は卒業論文を選択しているらしく、折り紙建築のサンプルを差し上げると、「大分でのよい思い出になりました」と喜んでいました。

最後に、二輪車等のプラモデルも少し展示しました。

この模型は建築物ではありませんが、寿司でいうところのガリの効果を持たせるものです。



模型展の全景

今回の建築士の模型展では、制作した模型を実際に見ていただくことで、建築士が持つ技術を紹介するとともに、多くの感動を与えることができた実感しています。

美術部では、絵画展や模型展を、第2回、第3回と継続して開催していきたいと考えています。

最後に、模型展の開催、運営に協力いただきました建築士会及び会員の皆様、また、模型展にご来場いただいた多くの方々に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

(おわりに)

時々、来場者に呼び止められて、模型についての質問を受けました。

制作の方法、塗装の材料、紙の材質、エアブラシやマスキングテープの使い方、接着剤の種類etc…。

知らない者同士でマニアックなうんちくが始まり、それがまた面白く、帰りのソニックでの缶ビールがうまかった!!



「建築士の模型展」
の動画

(公社) 大分県建築士会佐伯支部主催

「佐伯のひょうたん島を歩こう」九州オルレ 「大入島コース」に参加しました

2024年3月9日(土)

参加報告：大分支部 久野緑朗



写真1

9時30分佐伯港からマリンバス常栄丸に乗船して大入島の堀切乗降場へ(写真1)、港の前がスタート地点①食彩館だ。

海沿いの道を北上、左に海、右には山桜の花の景色を楽しみながら歩いていく。

途中の集落の中に「村上袈裟松翁頌徳碑」と書かれた立派な石碑がある、揮毫は岸信介(元・総理大臣)だ。

※村上袈裟松翁とは、村上勇(元・衆議院議員)と弟の村上春蔵(元・村上建設社長、参議院議員)の父親で、大分県の建設業界に貢献した人だ。

恵比須神社前を經由して最初のポイント②舟隠へ、昔、舟を隠した場所ということでこの名前とのこと、「海の細道」は狭くてちょっと怖いけど大変景色の



写真2

いい写真撮影ポイント(写真2)。

海沿いを進む、遠く佐伯の造船所などが見え、私有地のミカン畑の中を通過し、小高い峠を越えて右方向に進むと高松浦の港に着く。

高松地区公民館で小休止して水分を補給する。北の方向に山道を進み③加茂社の前を通って、



写真3

割ときつい山道を進むと④空の展望所へ到着(写真3)、とても景色が良くて眼のいい人は水の子灯台まで見える。

さらに山道を進んで左に海が見える道を下ると⑤白浜海岸へ到着、海水浴場やキャンプ場の看板があり、「伊能忠敬測量起点・文化7(1810)年」の標柱もある。

白浜トンネルを抜けると大入島中学校や消防団詰所、郵便局や公民館などのある所へ出る、前半の



写真4

ゴール地点**カンガルー広場**だ、ここで記念の集合写真を撮り、スタート地点の①**食彩館**へ。

少し遅くなったけどお楽しみのお昼ご飯だ（13：00）。

アジフライ、刺身、ひじきの煮物にみそ汁とご飯、やがて蒸したての牡蠣（大入島オイスター）と豪華。

産地採れたてなのでとても美味しかった（写真4）。

食事のあとの帰り道、A「**遠見山ルート**」は景色はいいが高低差が多いとのことで、高齢者の私達のグループは歩きやすいBの「**シーサイドルート**」を選んで出発。



写真5

竈神社前を通過して海岸に出る、久保浦隧道を抜け、民家のあいだ通ってまた山道へ。

鉄塔の横を進むと右に⑥「**海の展望所**」がある（写真5）、天気もいいし対岸の景色がとてもきれいだ。

歩きやすいシーサイドコースとは言いながら、結構高低差のある山道だ、しばらく景色を楽しみながら進む。

やがて守後浦の集落に降りてくる、小川と民家のあいだの道を進むと⑦**産霊神社（さんれいじんじゃ）**の鳥居があり海岸に出る、これからは高低差のない広い海岸通りを進む、漬物用の高菜を干している、ツワブキの畑もある。

やがて帰りの⑧**フェリー乗り場・石間港乗降場**に到着。

すぐに乗船すれば15：00の便に乗れるが折角大入島に来たのオルレのコースではないけど、「大正天皇駐蹕碑」の案内してあげると、ガイドの「大入ひょうたん島会:会長の田中利男」さんが、私たち3人を案内してくれた。

フェリー乗り場から海岸沿いに10分ほど歩くと⑨**案内看板**が建っている。

※登り口の看板

「大正天皇駐蹕（ちゅうひつ）記念碑登り口
明治四十四年十月、豊後水道において日本海軍が大演習の折、当時皇太子であられた大正天皇がお登りになり艦艇を観閲されたところ（海拔八十一米）で、周囲が公園になっており眺望絶景の地である」

と書かれている

看板のところから山へ入る、今日のコースで一番のきつい坂だ、以前は訪れる人もいたけど最近あまり人が来ないので道はすこし荒れている。

がんばって12分ほどで⑩**石碑のある場所**に到着。

（写真6）

Aルートの人たちも海岸へ到着し、心配して迎えに来てくれた（写真7）。

さあフェリー乗り場まであと一息頑張ろう。



写真6



写真7

船に乗るまでのひと時、久しぶりに会う佐伯支部の方々に今日の企画のお礼を申し上げて、今日のオルレがすべて終了、少し疲れたけど大変楽しかった。

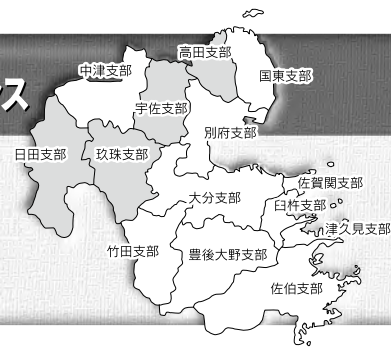
フェリーは5分程で対岸の佐伯港に到着した。（16：05）

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



氏名	木村 友希	生年	平成2年	 <p>木村 友希(玖珠支部)</p>
勤務先	株式会社木村組			
趣味	家族でお出かけ			
将来の夢、モットーなど	<p>大学卒業後に宮城県の仙台市で1年間、石巻市で3年間の約4年間、ハウスメーカーの設計職として勤務しておりました。</p> <p>2年目からの石巻では震災後の復興時期と新人だったことが重なり、複雑な手続きや設計業務に悪戦苦闘しましたが、今では貴重な経験ができたと感じています。その後、父が経営するツーバイフォー工法のパネル生産工場の人手が足りないとのことで九重町の工場で日々仕事に従事しています。前職の社長に教えていただいた「気づいた時が始まり」という言葉が好きでよく心がけています。失敗しても、今更何かに興味が湧いても、そこからスタートしていけばいいという考え方です。そんな言葉をモットーに建築士会の皆様とも仲良くしていければと思います。よろしくお願ひします。</p>			
氏名	久恒 玄季	生年	平成4年	 <p>久恒 玄季(日田支部)</p>
勤務先	久恒玄季建築設計事務所			
趣味	読書			
将来の夢、モットーなど	<ul style="list-style-type: none"> ・GENIUS LOCI・文化・歴史・経済等といったエレメントの上質な翻訳ができるようにする。 ・職能を拡げ、他事業との複合も考え、設計事務所の既存のビジネスモデルから脱却する。 ・memento moriに倣い、死ぬ瞬間まで日々自己更新を意識する。 			
氏名	荒川 司	生年	平成5年	 <p>荒川 司(高田支部)</p>
勤務先	non design office 株式会社・有限会社アラカワハウス			
趣味	海外旅行・お酒・人と話すこと			
将来の夢、モットーなど	<p>18歳まで地元豊後高田市で育ち、大学進学をきっかけに福岡県北九州市に移り住み約10年、世界中のたくさんの建築見て、触れて、建築の持つパワーに魅了されました。2020年、父と母の病気をきっかけにUターンで地元に戻り、世の中がコロナで騒がれる中での設計事務所としての開業は、人との繋がりが稀薄しており、地元で1人不安な毎日でした。そんなコロナ禍中に建築を通して何かできないかと模索し、今年の4月に地元豊後高田市にて古民家を活用した、宿泊施設とカフェ事業を始めました。</p> <p>【miwa!BASE.project】と題して日々頑張っています。本事業を通してこれまでは繋がることのできなかつた、地元や周辺地域の面白い人たちと知り合うことが増え、建築は人と人を繋げてくれる素敵な私の居所だなど日々、感じております。建築士会の一員として、これからも皆様と一緒に何か楽しいことができたらうれしいです。今後ともどうぞよろしくお願ひします。</p>			
氏名	辛島 大輝	生年	昭和63年	 <p>辛島 大輝(宇佐支部)</p>
勤務先	辛島設計一級建築士事務所			
趣味	磯釣り			
将来の夢、モットーなど	<p>辛島設計一級建築士事務所の辛島と申します。</p> <p>宇佐市で設計業務を行い、休日は子供との時間を大切に過ごしています。</p> <p>建築士としてまだまだ知識、勉強不足な部分が多いので、皆さんと交流できる機会には色々な情報共有などをさせて頂けたらと思っております。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>			



第9回おおいた建

11/9 SAT Start 12:15~
2024 Place ホテルメサビュート

講演会

絶滅 危惧住居の守り人が語る。日本人の生き方について

講師：時松和弘氏 農家民宿「おわた」主人(現在訳あって休業中)

今まさに絶滅の危機に瀕している安永6年(1777年)に建てられた住居で生まれ育ち、現在も守り続けている講師が、平成世代には新鮮で昭和世代にはどこか懐かしい、先祖代々受け継いできた住居を守るための知恵や暮らし方などを耳触りの良いおおいた弁で語ります。

一般公開

会場案内図



スケジュール

※会場は分科会以外ホテルメサビュートで

時刻	内容
11:45	受付開始
12:15	開会
12:30~13:30	講演会
13:30~13:45	青年女性委員会等活動報告
13:45~14:00	(休憩)
14:00~17:00	分科会
18:00~21:00	懇親会

お申込み用QRコード



連絡先：大分県建築士会玖珠支部 メールアドレス：kenchikusikai_kusu@yahoo.co.jp

電話番号：青年部長(後藤)090-7398-9716 事務局(梅木)090-1878-2113

※1次募集は終わっていますが、若干名の2次募集を受け付けておりますので、お申込みはQRコードから申込用紙をダウンロードいただき玖珠支部メールアドレスまで直接お申し込みください。締め切りは10月11日とさせていただきます。
なお、ダウンロードにはGoogleアカウントが必要です。



築セミナーinくすここ

セミナー テーマ **絶マチ！Re:バイバル**

今回のセミナーの舞台は消滅可能性自治体玖珠町・九重町。しかし、このまま絶滅してしまはあまりに惜し過ぎる！超絶にワクワクしてしまうマチである。そんな街をこの度”絶マチ”命名し、この素敵な”マチ”を会員の皆さんとめぐり、地域再興(リバイバル)のヒントを得。

絶山 このえを歩くコース ～このえが誇る絶景と、絶品の日本酒を育んだ歴史ある酒蔵の建物見学～

ススキが萌えるタデ原湿原や八鹿酒造施設特別見学。参加者には九重連山野帳プレゼント。もちろん八鹿酒造での日本酒試飲あり！！



バーナード・リーチが**絶賛**した 玖珠町の”きじ車”製作ワークショップ



日本民藝館の設立に関わったイギリス人陶芸家バーナード・リーチが絶賛したきじ車を丸太から作り上げます！初心者大歓迎！！

Aコース

Bコース

Cコース

ヘルメット持参で機関庫内部を見学できる特典付き！子どもに人気の立体プラバン製作・ミニSL試乗は大人も思わず笑顔に！！



Dコース

末広がりな幸運をもたらす末廣神社に参拝し非公開の本殿を特別に見学。栖鳳楼や酢屋等普段味わうことのできな建築物も必見！！



またとない **絶好** の機会！
旧豊後森機関庫内部特別見学コース

玖珠町民も見られない！ **超絶**
ディープな玖珠町の文化財を巡るコース



石川県建築士 西和人氏による講演会について

大分支部 川端 大輝

令和6年4月26日に行われました、大分支部の通常総会に先立って、石川県の建築士 西和人氏の講演会が行われました。“能登震災の現状にローカルアーキテクトとして向き合う”をテーマに、今回の震災に対して地元建築士としてどのような活動を行ってきて、復興にどう向き合っているのかをお話ししていただきました。

西氏は普段、災害関連の活動を生業としておらず、地元石川県の住宅や企業をメインとして活動を広げています。しかし、能登半島地震により協会からの要請で応急危険度判定や被災度区分判定業務、加えて民間企業からの要請で仮設住宅団地計画案の作成等を行って行く中で、自分たちで出来る事は何かないかと考えたそうです。

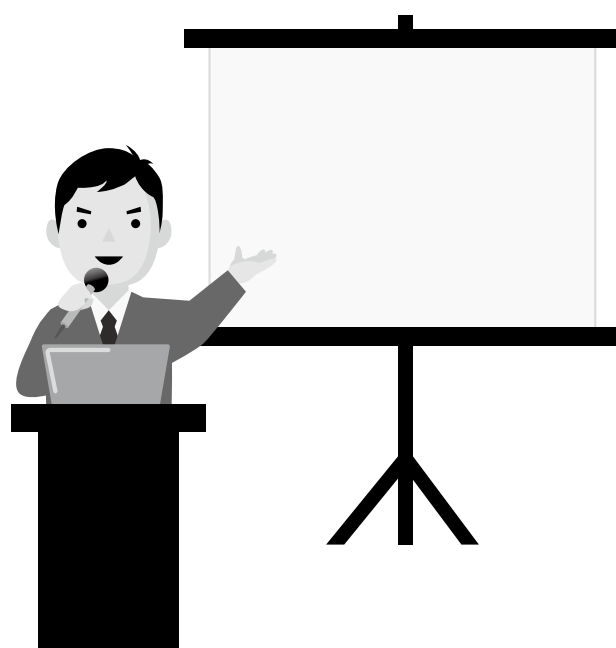


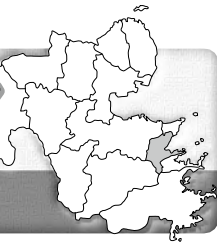
そこで、西氏は仲間たち有志とネットワークを広げ、熊本地震の際発足された「建築プロンティアネット」という活動団体に北陸メンバーとして参加し、活動を取り組みはじめました。主な活動として、「自分の家は再建が可能なのかどうか分からない」や「解体しないといけないのだろうか」等の被災者の悩み事に耳を傾け、建築士として専門的なアドバイスをする等、定期的な現地相談や大工さんと連携しながら応急措置を行い、被災者の不安を払拭し復

興に努めています。慣れない業務ながらも、「建築プロンティアネット」によりサポートを受けながら、週に1回・7件程度の活動に勤しんでいます。



本講演を聴講して、私は大分でも事前に活動団体を発足もしくは「建築プロンティアネット」のような活動団体に参加する等して大規模災害に対して準備しておく事が必要ではないかと考えます。被災した本人になる可能性もありますが、社会貢献の観点から専門的ボランティア活動に事前に取り組んでおく事もこの建築士会に入会するひとつの利点になるのではないかと思います。その為には、総会時に井上先生が仰っていましたが、情報共有等を大分支部のみではなく、他支部との連携や協同的活動が必要ではないかと考えます。私自身もどうすれば、若手会員が増強するのかを考えていきたいと思えます。





建築士の日記念事業

臼杵支部 合澤 浩司



臼杵支部では、平成29年より一般の方々に向けて「7月1日は建築士の日」記念として、支部会員による作品展示会を開催しています。ちょうどこの年、JR上臼杵駅が開業100周年ということで、記念事業に便乗して駅駐車場にテントを張り「折り紙建築」と待合での「作品展示会」を行いました。



みなさんは、お気づきでしょうか。「建築士」が、悲しいかな、ほとんど知られていないことを。内側にいますと結構興味深く、意味のある、役立つ活動しているなど感じますが、そのことを市民は、ほとんど知りません。これはアカンと思い7月1日を含む土曜から土曜までの1週間、毎年行ってまいりました。

今回で第8回になります。

自分の関わった建物の写真や、設計図面、その図

面が建物となった時どうなるのか、工法・材料・模型・趣味のDIY・工事の過程など、力作が多く平成30年は、新作も含め前年の作品を再利用しました。

通勤・通学・その他駅利用者に向けて建築士の職業を少しでも理解して頂こうと私自身が副支部長の時代から継続しています。



去年は、会場の確保が難しくなり、「よろず建築相談」とコラボし、「折り紙建築」と合わせサーラにて行い、今年は、継続的に開催できる場所が確保できJR熊崎駅で行う事ができました。



こういう行事の泣き所といえば、ソフトの更新です。4年前から新作展示のみと限定とし始めたら中々作品が、集まらなくなり始めました。しかしながら駅の待合否が応でも目に入ります。

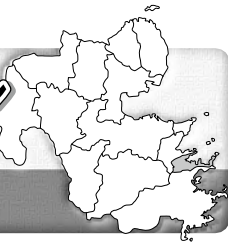
こういう草の根活動が実り、将来の建築士の誕生やZEH・ZEBへと繋がっていくことを祈り、これからも継続していきます。



インフォメーション

INFORMATION

津久見支部



令和6年度 よろず建築相談会 津久見会場

津久見支部 金只 昌平



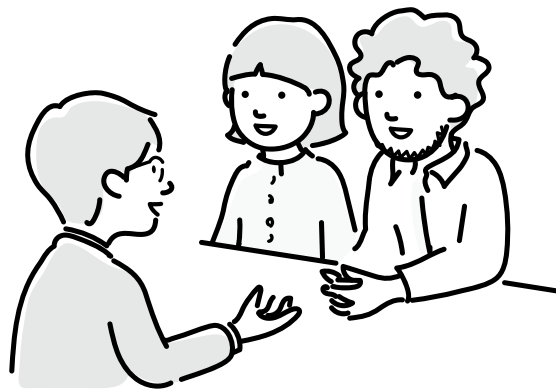
今年の相談者は2名で相談内容は各1件でした。
例年、事前予約制にしております。
市報を見て予約をされた方が1名、大分県建築士
会からの紹介の方が1名という内訳です。

相談内容は、1件目は土地の分割協議についてということで、建築士より不動産業者もしくは司法書士が適任だろうと案内しました。

2件目は、かつて臼杵藩の大庄屋であった自宅を文化財登録にしようかと考えているという方です。

市の教育委員会に相談したところ、建築物として相応の価値が認められるかの判断を仰ぐため、建築士会を紹介されたということで、相談会に来られました。

当支部には古民家について詳しい人材がないという事で、大分県建築士会から本会の芳山氏の紹介を受け、後日調査に入ってもらう手配をしました。私もその調査に同席する予定で楽しみにしていましたが、前日から外せない所用ができ参加できませんでした。調査結果によりますが、今後関係が継続するかもしれません。





令和6年度 よろず建築相談会を経て

日田支部 吉田 正浩

日田支部 副支部長の吉田正浩と申します。この度、このような報告書を作成する機会を与えて頂きまして、誠にありがとうございます。諸先輩方を前にして恐縮では御座いますが、私も60過ぎているのに、正式な文章など書いた事は無く。常々何か一つでも会のお役に立ちたいと思っておりましたので、今回『よろず建築なんでも相談会』での事を中心に、私の思いも含めて書かせて頂く事と致しました。思いのままを書きますが、皆様のお心に一石を投じる事が出来るのであればとの思いです。

さて、今回の建築相談会ですが、市民の皆様にかアピールするものは無いかと考え、以前ある講演会で、日田市内で大きな地震が起きるとブロック塀の約70%は倒壊の危機にあるという説明があった事を思い出し、ブロック塀の無料耐震診断などをアピールしてはどうかと考えました。

ブロック塀の5段積みの高さは1mです。大人は腰までの高さなのですが、保育園児以下は頭上を越え、小学校1～2年生は肩までの高さが有ります。横筋が通っているので塀が倒れると、数トンから十数トンの衝撃が有ります。まさに一命取る(1メートル)となる事を、多くの人に知ってほしいと思いました。

ブロック塀の耐震診断のチラシを作成するに当たり、『無料』を大きくアピールした事が功を奏したのか、当日10時からの開会でしたが、その準備中に早速買い物客の男性から「無料でブロック塀の耐震診断をやってもらえるの？」と声掛けが有りました。「塀の基礎、傾き、クラック、鉄筋の有無などを無料で診断出来ますよ、通学路に面しているなら、解体費用も補助金が出ます」と間髪いれず返事したところ、「家は通学路に面したブロック塀なのだよ」との返事。「すぐでも調査出来ますよ」とすると男性は「買い物の後でも良いかな？」私はチャンスとばかり「はい、大丈夫です。お名前とご住所、連絡先

のご記入をお願い致します」と準備していた記入用紙に記入頂きました。話がとんとん拍子に決まったので、(無料の効果は絶大ですね)と顔がニヤニヤして、支部長の喜ぶ顔が目には浮かびました。

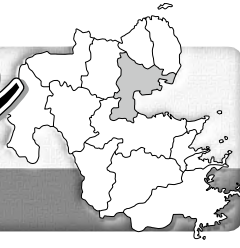
現地には数年前にもブロック塀の診断調査に同行して頂いた、頼りになる大友秋太氏に声をかけ、2人体制で出かけました。

現地では依頼主が待っていて小雨の中、塀の築年数、基礎の状態、倒れ、クラック、鉄筋の有無等入念に調べました。鉄筋探査機も精度良く反応したので依頼主も納得の様子で、当時の工事状況を詳しく話されました。「腕の良い左官に依頼したので、目地などは2回押さえて出来栄がとても良かった」確かに化粧ブロックにも鉄筋が通っていて、目地やブロックにもクラックなどは見あたりませんでした。でも塀の端部が敷地内に傾いている事を指摘し、通学路に面しているの、解体費用の補助金対象の可能性は高い事を説明して、修理をお奨めしましたが、道路側に倒れていない事や、人通りが少ない事、依頼者本人の修理の意識が低い事などが有り、今回は改善に至りませんでした。

それでも、ブロック塀の倒壊で大きな事故に繋がる事や、緊急車両の通行に支障が出る事等を説明し、御理解頂けたと思えました。今回は1時間程度の活動でしたが、小雨の中、上機嫌な様子で最後までお見送り頂きました。

相談会に帰り報告書を作成しましたが、梅雨時のせいか相談者は少なく、やはり来場者(買い物客)と設計士の距離が遠いと感じました。せっかく建築士の先生方が、お忙しい中参加頂いておりますので、何か親しみを持って気軽に相談してもらおう活動が出来ないかと考えてしまいます。例えばSNSを活用した相談会や、3D建築CADの簡単な取り扱い説明、バーチャル体験的なものなど、若者が興味を湧くものを取り入れたり、ギターの弾き語りによる人集めなども失敗覚悟(始末書付)でやってみてはどうでしょうか。若手建築士とのコミュニケーションを積極的に取り入れ、また新しいものを生み出す循環的活力を望みたいと思います。





令和6年度 よろず建築相談

別府支部 中原 健

令和6年6月30日に県下一斉で実施したよろず建築相談にて、別府支部においてはゆめタウンで行い、相談件数は2件であった。

1件目の相談内容については、住宅の耐震化についてである。相談者は、旧耐震の木造一戸建て住宅の耐震改修を検討しているとのことであったことから、市が実施している耐震診断および耐震改修の補助制度、並びに、バリアフリーおよび省エネに関する補助制度についても併せて説明した。大規模なものではなく簡易の耐震改修の方法がないかとのことであったため、既存の柱と梁の接合部への金物の設置等を行うといった方法もあることを伝えた。今後の建物の使用年数を踏まえ、大規模なものではなく必要な範囲での改修を検討することとなった。

2件目については、マンションの住戸内改修についてである。住戸内の床の段差解消を含め床の傾斜の改修を行いたいとのことであり、費用の節約のため床仕上材の張替えでの対応は可能なのかとの質疑であったが、段差が大きいことや、傾斜の改善を考慮すれば、床の下地を含め改修の方が長期的に見て最善なのではないかとの提案を行った。また、床の段差解消については市の実施するバリアフリー関係の補助制度の対象となる可能性があることから制度内容を説明し市へ相談することを薦めた。

相談に来た2名とも高齢者であることから、インターネットでの情報収集等が困難で、誰に相談していいかわからないとの思いがあり、今回実施した顔を合わせての相談の方が安心して相談に来る事ができるとの意見であった。



MY WORK

- ★建物名称 道の駅「たのうらら」地域振興施設
- ★建築場所 大分市大字神崎字梶原1228-9
- ★延床面積 2,736.82㎡
- ★構造 鉄骨造2階建て
- ★設計 株式会社大有設計
- ★施工者 株式会社佐伯建設

★設計趣旨

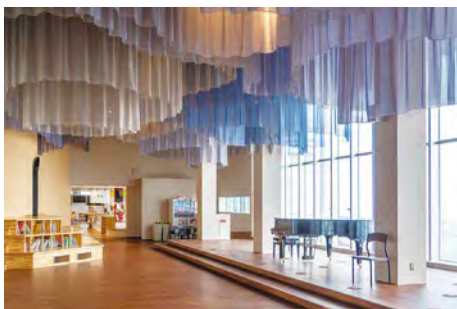
道の駅「たのうらら」は、大分市の新たな玄関口として整備しました。建物は、白亜で潇洒な外観が特徴で、屋根は別府湾の穏やかな海や高崎山の稜線をイメージして波型にしています。大分でとれた新鮮な農産物が並び、魅力ある食材をふんだんに使用した料理を堪能することができ、また、豊かな自然に恵まれた景色を存分に楽しむことができる展望スペースのほか、誰でも自由に弾くことが出来るグランドピアノを配置した「おとの聴こえる広場」、かつて大分～別府間を運行していた路面電車の展示など、大分の観光をはじめ歴史、文化に関する情報発信拠点としての機能も充実しています。



◀施設外観



▶路面電車



▶おとの聴こえる広場

施設外観(夜間)



◀物販施設(たのうらら市場)

- ★建物名称 リリー青山3
- ★建築場所 大分県別府市青山町3052-5
- ★延床面積 1,951.38㎡
- ★構造 鉄筋コンクリート造8階建
- ★設計 周設計工房 今橋 周作
- ★施工者 三光建設工業株式会社



MY WORK

- ★建物名称 HOUSE TO
- ★竣工 令和6年3月
- ★建築場所 大分市
- ★用途 週末住宅
- ★床面積 106.31㎡
- ★構造 木造
- ★設計 松田周作建築設計事務所
- ★施工者 箕河原淳さん(木工)、大橋重臣さん(竹工芸)、江口征一さん(左官)、野口泰秀さん(大工)、遠藤ももこさん(作品提供、美術家)

★設計趣旨

木造平屋の週末住宅としての改修(リノベーション)。木工・箕河原淳さんが中心となり、竹工芸・大橋重臣さん、左官・江口征一さん、大工・野口泰秀さんらが参加する豪華な施工メンバーにより実現。竣工に際して、美術家・遠藤ももこさんなどのアート作品が、多数、備えられる。

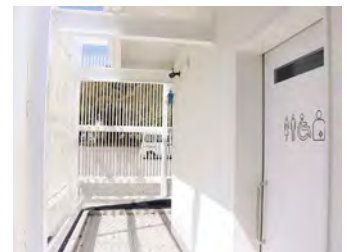
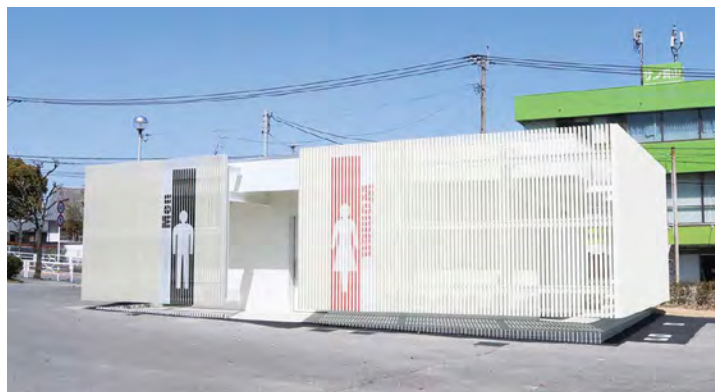


MY WORK

- ★建物名称 野口原総合運動場便所
- ★建築場所 別府市大字別府3088番地の9
- ★延床面積 29.64㎡
- ★構造 RC造平屋建
- ★用途 公衆便所
- ★設計 別府市建設部施設整備課第2係
- ★施工者 有限会社 アーク
- ★設計趣旨

別府市の中央部に位置する野口原総合運動場は、陸上競技場、軟式野球場、ソフトボール球場、プール等を有しており、人気の高い施設である。今回のトイレの計画場所は、駐車場入り口付近であり、また隣接する高校の通学路に面しているため、施設利用者だけでなく、多くの学生たちにも利用される。そのため、建物の計画に際しては防犯対策に重きを置いて進めた。具体的には、①監視性（見えやすさ）、②動線の分離、という2点であり、①の対策として、ルーバーを使いプライバシーの確保をしながら外からは見えやすい状態とした。また、入口には監視カメラを設置することで防犯の印象を高めた。②の対策として、正面に多機能トイレ、左右妻側に男女トイレの入り口とすることで動線を分離した。

内観と外観は、明るく衛生的なイメージをもってもらおうよう白を基調とした。また、全体を白にすることで、ルーバー最下部に付けた間接照明の効果を高めた。建物の形状としては至ってシンプルではあるが、ルーバーによりサインや間接照明など意匠的な変化と面白さを作り出した。





My Best Book



マイベストブック

『Healing Lighting 建築化照明でつくるグラデーション』

著者：家元あき

豊後大野支部：工藤 健治

LED照明が普及し始めた頃、私はちょうど独立し設計事務所を始めた頃である。

その頃の住宅系建築雑誌では、間接照明が至る所で使われるようになり住宅雑誌の建物紹介では内観写真が主流だった。ダイナミックな空間構成やセンスの良い色使いなどすばらしい写真が数知れず、その中でも空間を際立たせる影の主演、『照明』に私はひそかに興味を持ってそれらを眺めていた。

その頃、照明器具メーカーの大光電機さんに勧められたのがこの本である。大光電機の社員（当時）で、「間接照明の女王」と呼ばれている家元あきさんの繊細なスケッチやディテール、配光のノウハウがまとめられた本で、すぐに私の照明計画のバイブルとなった本である。

施主と打ち合わせをするとき、「間接照明を使いたい」と相談を受ける。一般的に『間接照明』とは壁などを使い間接的に空間を照らす手法のことであるが、私たち設計者が考えなければならない部分は、その照明を違和感なく空間に融合させるための建築の部分である。この本では、建築化照明のディテールや事例を中心に構成されているのだが、いかに照明器具を隠しながら、美しいグラデーションを作り柔らかな空間とするかがパターン別のテクニックとして詳しく紹介されている。

私も感化され、間接照明をかなり取り入れてきたが、実際にはこの本通りにはいかず、大衆居酒屋のような尖った照明グラデーションや陰影が出来上がってしまったりで、試行錯誤を繰り返し、本を読み返しながら現場監理をしてきたことを思い出す。

実際、現場においては照明の配光確認が出来るのは内装工事が終わってからになるので、そう言った面でも設計イメージと実際の空間の配光具合との乖離には苦しまされたのが懐かしい。

今でもこの本はデスクの真後ろに置いてある愛読書である。



『青空文庫 「津浪と人間」』

著者：寺田寅彦

津久見支部：大村 正壽

青空文庫（あおぞらぶんこ）は、日本の電子書籍サービス。著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品を、電子書籍で公開し無料で提供しています。

この「津浪と人間」はダウンロードしてプリントするとA4で6枚の文章です。本とは言えないかと思いますが、取り上げさせてもらいました。

寺田寅彦と言えば「天災は忘れた頃にやってくる」と言う言葉を思い浮かべる方も多いと思います。

さて、「津浪と人間」の冒頭に「東北日本の太平洋岸に津浪が襲来して、沿岸の小都市村落を片端から薙《な》ぎ倒し洗い流し、そうして多数の人命と多額の財物を奪い去った。」

この津波は1933年（昭和8年）3月3日の早朝に発生した昭和三陸津波です。なんと91年前の災害です。

寺田は下記について詳しく書かれています。

- ・学者の意見。
- ・罹災者の言い分。
- ・政府、マスコミ、学者の災害予防案。
- ・災害から数十年が経つことで、関係者の世代交代。
- ・災害記念碑が道路改修、地区改正等により目につかないところへの移動。

寺田の文を引用させていただきますと、「こういう災害を防ぐには、人間の寿命を十倍か百倍に延ばすか、ただしは地震津浪の周期を十分の一か百分の一に縮めるかすればよい。」

「少数の学者や自分のような苦労症の人間がいくら骨を折って警告を与えてみたところで、国民一般も政府の当局者も決して問題にはしない、というのが、一つの事実であり、これが人間界の自然法則であるように見える。」

「普通教育で、もっと立入った地震津浪の知識を授ける必要がある。」と書かれています。

91年前と現在がどれほど変わったのか、進歩したのかを考えさせられます。

先ずは、ダウンロードして、一読をしていただきたいと思います。

BOOK My Best Book

マイベストブック

『人生があと200日で終わるとしたら』

著者：林 良彦

佐伯支部：井上 一則

そのミュージシャンは、ある日突然、自分が余命いくばくもないということを知らされました。

彼は、どんなふうに関の人生を見つめ、どんな思いに至り、人生のフィナーレを迎えたのでしょうか。

「緩和ケア」という、終末期の患者さんに向き合う医師の目を通して、「生きる」こと、そして「死ぬ」ことを深く考えるきっかけになってほしいと願う一冊です。

-----推薦者談

私は、本の中に出て来る音楽仲間の一人でした。主人公は癌という病気と向き合い、余命を音楽で全うした人でした。

彼は私より一歳下でしたが、人の陰口悪口は一切したことも無い男で、音楽仲間の誰からも愛された人生でした。

親兄弟も無く孤独な彼は、「音楽仲間が家族」と公言するほど彼もまた皆を愛していました。

59才まで何事も無く、60才という若さで生き急いだ人生。

そんな彼が最期に過ごした緩和ケアセンターの医師（林 良彦氏）が、そこで過ごした彼の8か月間の病気と音楽、そしてその仲間達を綴った本です。

『野獣志願』

著者：勝目 梓

竹田支部：山浦 一光

小生のマイベストブックと言えるのは有りません。

小学、中学時代はテレビ、ラジオ等も無く、本を読む事が唯一の楽しみで、小学校時代小さな学校だったので図書館も小さく、図書も限りがありましたので、ほぼ読みました。

井の中の蛙で世の中のこと、世界のことなど全く分かっておらず、読書のおかげで多少分かったと思います。

自分の人生の指針とか生き方、教訓とかなくて、気の利いた事など恐れ多い事です。

最近の本を読む事は、睡眠薬代わりで、勝目梓、司馬遼太郎、西村京太郎の著書を楽しんで読書している今日この頃です。

今のこのご時世は、パソコン、スマホ、AIの発達で本を読む事が少なくなっていると個人的に思います。

字を書く事などが無くなり、文章力も衰え、ボケ防止の為に個人の手勝手ですが、大いに本を読み、字を書く事が今の時代、大事な事と思います。



近況トピックス

宇佐支部 光井 智

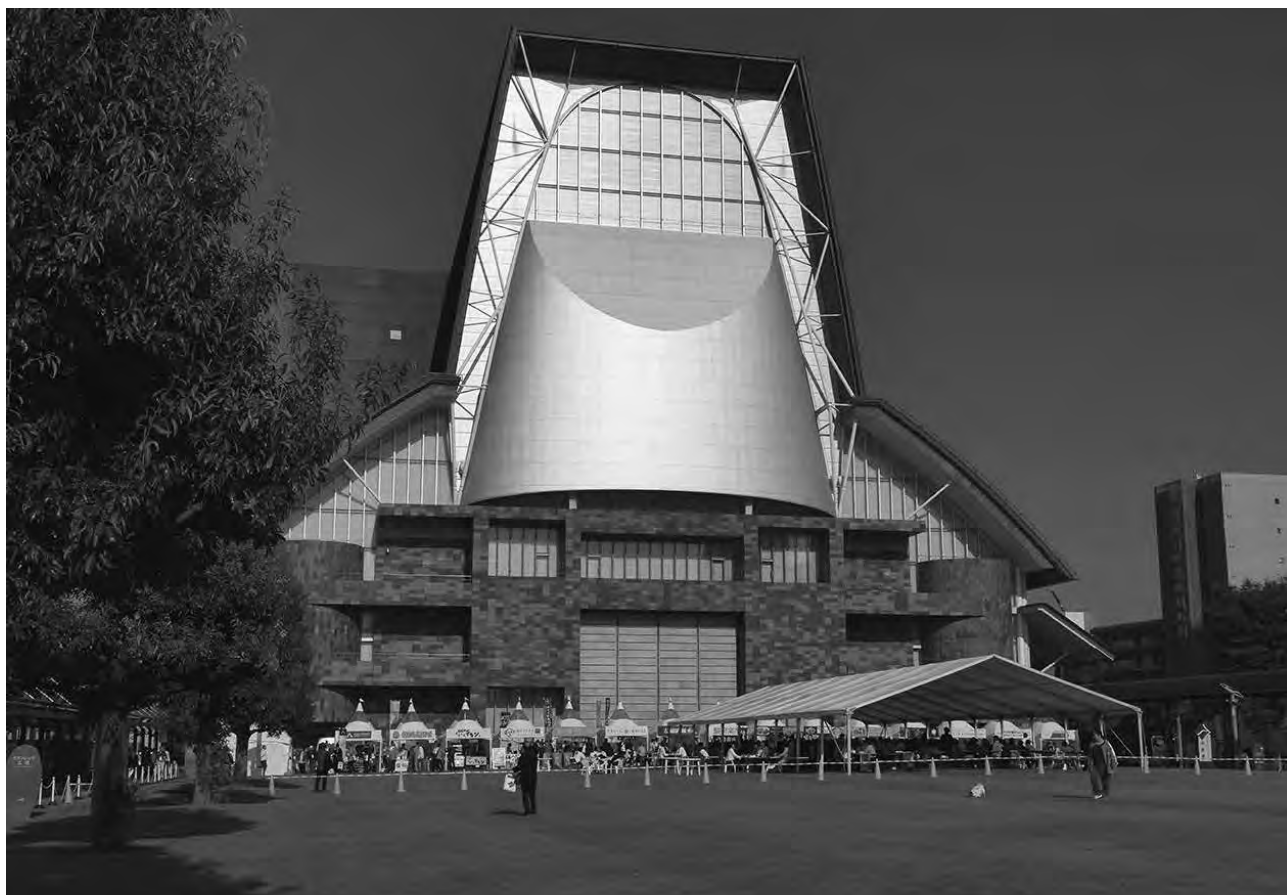
建築士会に入会し、宇佐支部青年部長から大分県、九州ブロック、というようになんとか流れに乗っていき、恐れ多くも九州ブロック青年女性協議会会長に任命していただき、その2年間の任期も今年6月に終わり、一段落ついたような気持ちがあります。

入会当所は右も左もわからない中で、建築セミナーと九州まちづくり塾が宇佐で行われ、全国大会大分大会準備～開催、翌日のエクスカージョンと事業に関わることが多く、色々な経験が出来たことが思い起こされます。

九州ブロックでは、建築士の集い運営のための会議で九州各地に赴き、たくさんの建築士仲間とふれあい、各地の町並みなどを見学し、見聞が広がったとともに、心地よい居場所を見つけたような気持ちに気づいたこともありました。

数々の活動を通し、私の中に建築士として大事な4本の柱が立ちました。新しいもの、古いもの、まちづくり、防災の4本です。新しい法律や工法・建築など。歴史や文化、ヘリテージなど。町並み、観光、生活環境。そして、災害対応、減災、復興支援等々、4本の柱は独立して立っているのではなく、相互に複雑に絡み合っています。これらを意識して活動することでより建築士として学びに前向きになれるような気がいたします。

今、改めて振り返ってみると、様々な出会い、経験が自分の中で厚く広い層として積み重り、人として建築士として成長しているのだと思うとともに、決して一人ではここまで来ることは出来なかつただろうと強く感じます。これからも常に学ぶことを忘れず恐れず建築士会とともに成長していきたいと思えます。



静岡市：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

近況トピックス

竹田支部 阿南 克俊

つい先日、建築セミナーの原稿を書いたような気がしますが、今回、諸先輩方を差し置いて二度目の登場となることをお許しください。

「トピック」ではなく、「トピックス」なので複数の話題を提供できるように書いていこうと思います。

昨年の12月に建築セミナーが竹田市にて開催されましたが、2024年になり竹田市ではショッキングなニュースが相次いでいます。まず、建築セミナーの際にも紹介したサンドイッチの名店「今勢屋」が1月末に閉店しました。続いて5月下旬には和菓子店「川口自由堂」が、それから間もなく、「はら太餅」で有名な和菓子店「生長堂」が相次いで閉店となり

ました。共通するのは後継者不足。昔からあった街の景色がなくなるということはやはり寂しいものです。今後、竹田の街がどのようになっていくか注視していきたいと思います。

6月に福岡市に行く機会がありました。天神では『天神ビッグバン』プロジェクトとして、高層ビルの建て替えが進行中です。予定まで時間があつたので、工事が進むエリア周辺を散策してみました。仮囲いの一部が透明パネルになっており、現場の様子を覗き込むことができる訳ですが、一般の方からすれば立ち止まって覗き込んでいる姿は「怪しい人」として映ったかもしれません。「建築確認表示板」で建築主や設計者、確認検査機関を確認してしまうのも私達ならではのですね。

数年前から仕事の傍ら小学生にスポーツの指導をしています。以前、子ども達は「トイレに行っていますか」とよく聞いてきました。そう聞かれると私は決まって「ダメです」と優しく答えていました。

(決して行かせない訳ではありません) 常々、子どもたちには自己主張をしっかりできる選手になろうと伝えていますので「トイレに行ってきます」で良いのです。私に「イエス」「ノー」を求める必要はありません。最近ではほぼ全員が「行ってきます」と言えるようになったので「行ってらっしゃい」と快くトイレに送り出しています。

そんな私ではありますが、「飲みに行ってきます」と妻の前で堂々と言えるようになる日は程遠い…。





マーボアの旅先日記 その21



顧問 井上正文

「島根・鳥取での旅の思い出」

島根県の国宝建造物巡りの話は、すでに本誌119号（2017年秋季号）で紹介していますが、島根県と鳥取県には魅力的な名所が数多く存在しますので、紹介できていないスポットや鳥取県唯一の国宝建造物である「三仏寺投入堂」を訪れた時の話などを中心に話したいと思います。

島根県と鳥取県は両県ともに人口は都道府県別でいうと全国46位（66万人）と全国47位（57万人）となっています。古くは明治9年には、鳥取県が島根県に併合され1つの県となった歴史（5年後には2県に分離）もあり、現在も参議院選挙区では両県が合区され2県まとめて単独の選挙区となっています。

一方では、歴史面、文化面での宝（文化的遺産）は枚挙に暇なしの両県です。これらの「宝」に加えて食文化さらには建築士会活動にまで枠を広げてお話ししていきたいと思います。鳥取県は、我々大分県民には馴染みの薄い県のひとつではないかと思えます。訪れるための移動ルートを考えても時間距離が長い地域です。また、存在感という側面からも決して存在感が高いとも言えない地域かもしれません。ただ、読者の方の中には、平成12年（2000年）に開

催された建築士会全国大会鳥取大会を記憶されている方もおられるかもしれません。

■鳥取県唯一の国宝建造物「三仏寺投入堂」（写真1参照）を訪れたのは、この全国大会の時でした。このアクロバティックな建物の姿には感動を覚えますし、建設作業の困難さにも心を打たれます。

お堂の立地は、大分県宇佐市の龍岩寺を思わせます。全国には数多くの国宝建造物が存在しますが、その中でも、この「投入堂」は見学の難易度はかなり高いといえます。交通の便が悪いことに加えて、「投入堂」を間近に見ることにはかなりの困難を伴います。投入堂への入り口には、「単独での入山禁止」とのサインがあります。単独だと滑落した場合の救助が遅れる可能性があるという理由からでしょうか。複数人での入山でも、天候の影響でお堂に近づけないあるいは、滑落の危険性のため入山禁止を告げられることもあるとか。急斜面の道なき道を登っていくのです。

私の場合は、単独行動だったこともあり入山段階で登攀を諦め、遠目での拝観に留めました。それでも、私の心の中では、「投入堂を制覇した」ということにしています。写真からもお堂への



写真1 遠景の投入堂

▶ 島根県と鳥取県の県境



写真2 島根県と鳥取県の県境

接近が難しいことはお分かり頂けるかと。

続いて島根県の魅力的なスポットの紹介です。島根県と鳥取県の県境を地図上で正確に把握している人は意外に少ないかもしれません。宍道湖が島根県というのは分かりやすいのですが、宍道湖から中海を経て美保湾（日本海）に繋がるあたりの境界は私も地図でチェックしないと自信がありません。（写真2参照）

■隠岐の島はさらにアプローチが困難なスポットです。松江の北東60キロの日本海に浮かぶ島で「島後（どうご）（1つの島）」と「島前（どうぜん）（3つの島）」の2地域から成っています。「世界ジオパーク」の指定を受けるほどの巨大火山の噴火に起因した特異な地形の島々です。

この特異な地形が隠岐の島の一番の見所でしょう。

隠岐の島へは、境港や七類からの船便か出雲空港や伊丹空港からの空路が便利かと思います。因みに伊丹空港から隠岐世界ジオパーク空港だと、50分ほどの飛行時間で一気に移動できます。隠岐の島と言えば「闘牛（牛突き）」は一見の価値ありです。家族ぐるみで育てた牛を戦わせる勇壮なもので、約800年前、流刑の身となった「後鳥羽上皇」を慰めるために始まったとも言われています。牛同士の戦いは長時間に及ぶこともあり、写真のように角の回りからの出血を見るだけで、戦いの激しさ見て取れるかと思います。（写真3参照）



写真3 牛突き

■続いて、島根県安来市にある「足立美術館」を紹介しましょう。ここは「横山大観」の手になる絵画は言うに及ばず、日本画の巨匠たちの絵画を多く所蔵しています。建物周囲の日本庭園も秀逸です。（写真4参照）我が国を代表する日本庭園といっても過言ではないでしょう。この庭園の維持保全のため、多くの専属の優秀な常勤の庭師さんを抱えているほどです。

国宝・出雲大社本殿からしばらく歩くと、「旧大社駅」が駅舎として使用されていた状態をそのまま残しつつ保存されています。これも建物の保存方法として見るべきものとして評価できます。（写真5参照）



写真4 足立美術館の日本庭園



写真5 旧大社駅舎

この「旧大社駅舎」から目と鼻の先に出雲そばの名店がありますので、駅舎見学のあとには立ち寄られることをお勧めします。(写真6参照)



写真6 出雲そば

すでに、本書119号で、鳥根県の3つの国宝建造物（出雲大社本殿、神魂神社、松江城）を紹介していますので、本稿と併せてご覧頂けると幸いです。(大分県建築士会HPからご覧頂けます)

■最後に、「鳥根県建築士会のこと」を少し紹介しておきます。前会長の足立正智氏とは、何かにつけてお世話になってきました。

平成25年（2013年）には建築士会全国大会鳥根大会を開催されたことから、間近に迫った「建築士会全国大会大分大会（2016年）」に向けての多くのアドバイスや開催資料を提供して頂き、多くの情報援助頂きました。現会長の「坪倉菜水会長」は全国初となる女性会長としてご活躍で、建築士会活動の幅広い分野で地に足をつけた活動を展開されています。



写真7 松江での大分大学同窓会

若干、個人的なことにはなりますが、鳥根県建築士会の現専務理事兼事務局長の「小川啓継氏」は私の大分大学時代の教え子にもあたり、鳥根を訪れるたびに鳥根県在住の建築構造学研究室の卒業生を集めて歓待してくれています。(写真7参照・左端が小川氏)

事務局だより

■委員会活動報告及び予定

防災委員会

<第1回>

令和6年7月3日（水） コンパルホール

議題

1. 大分県知事との「災害発生時における住家の被害認定に関する協定」に基づく対応
2. 災害ボランティアネットワーク協議会（連絡会）への参加について
3. 本年度の研修会について
 - 1) 被災建築物応急危険度判定士実地研修
 - 2) 罹災証明に必要な住家の被害認定調査に係る担当者養成研修会

<研修会開催>

令和6年7月3日（水）令和6年度「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」研修会

情報広報委員会(編集部)

<第1回>

令和6年7月13日（土）

- ・令和6年度「建築士おおいた秋季号 No.133」編集部会開催

報告1

「第1回理事会」について

令和6年5月24日（金）に、コンパルホールにおいて本年度第1回理事会が開催され次の議案について審議されいづれも承認されました。

1. 令和5年度事業報告について
2. 令和5年度収支決算について
3. 理事・監事候補者選考状況の報告について
4. 定款・規則の改正について
5. 学生会員制度について
6. 代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告について
7. 令和6年度社員総会について
 - ・その他報告・検討事項

報告2

「通常総会」について

令和6年6月14日（金）に大分市コンパルホール多目的ホールにおいて開催され、次の議案について審議されいづれも承認されました。

1. 令和5年度事業報告の件
2. 令和5年度決算の承認の件
3. 令和6年度事業計画及び収支予算書の件
4. 理事・監事の選任の件
5. 定款・規則の改正の件
 - ・その他会務報告

報告3

「第2回理事会」について

通常総会に引き続き会場を大分市コンパルホール305会議室移動して開催され、次の議案について審議されいづれも承認されました。

1. 新三役の選任
2. 新委員会委員長の選任

報告4

「永年会員表彰式及び懇親会」について

令和6年6月14日（金）に大分市の大分センチュリーホテルにおいて開催しました。

今年度の永年会員表彰対象者は26名で、出席されました4名の方を代表して寺林貞臣さん（別府支部）へ、幸会長より表彰状と粗品が贈呈されました。

引続き懇親会が59名の参加により盛大に開催されました。

報告5

「建築士の集い 宮崎大会」について

令和6年6月22日（土）に、都城市で開催されました。研究集会の分科会では和田恵利子さん（大分支部）が「気候風土適応住宅の大分県の状況」を自作の「大きな屋根の小さなすまい」の補足資料を交えながら報告しました。

また、全体会の「地域実践活動発表」では、足立洋平さん（臼杵支部）が、「うすき竹宵を通じて地域密着型事業への挑戦～捨てるはずの竹でEnjoy Play～」と題して、竹宵で使用した竹を竹炭にして工作イベントを地域の子供達と一緒にを行うイベントの活動報告をして3位入賞しました。

入賞おめでとうございます!!

報告6

「令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）」について

令和6年7月14日（日）、15日（月・祝）に、「未来へつなぐ『まち・ひと・建築』～インクルーシブな社会を目指して～」をテーマに、日本建築学会建築会館ホールで、開催されました。大分県から7名の方が参加しました。

分科会では、高橋由美さん（大分支部）司会の下、板場奈美さん（大分支部）が「未来につなぐ環境建築への取組～地方の建築技術者が出来ること～」の演題で大分県委託事業の「建築物グリーン化促進事業」の取組を発表しました。

■事務局からのお知らせ

案内1

「建築士会全国大会鹿児島大会」の開催について

令和6年10月25日（金）、鹿児島市の「宝山ホール」にて開催されます。

大会のテーマは、「もえよ！建築維新 ～たぎる地で築くみらい」です。

ワクワクする企画が盛沢山のように。

案内2

「岩手県建築士会との交流会」の開催について

全国大会が鹿児島市で開催されるのを機に、令和6年10月24日（木）姉妹建築士会の締結をしています岩手県建築士会との交流会が、下記のとおり計画されています。参加ご希望の方は事務局へご連絡ください。

記

日 時：令和6年10月24日（木）18：00～

場 所：天文館吾愛人（わかな）本店

会 費：6,500円

案内3

「監理技術者講習」の開催について

（監理技術者以外の方も受講可能）

大分県建築士会では開催月「第2水曜日」に建築工事に特化した内容で「監理技術者講習」を開催しています。特に、一級建築士、1級建築施工管理技士、1級電気工事施工管理技士、1級管工事施工管理技士等の「建築工事の分野で活躍されている監理技術者」にとりましては、実務に役立つ充実した内容のテキストを使用して講義を行います。CPD6単位が付与されます。

【今後の開催予定】

○開催月「第2水曜日」に開催します。

令和6年 9月11日（水）

11月13日（水）

令和7年 1月15日（水）

2月12日（水）

○時 間：8：50～16：40〔受付8：30開始〕

※8：45～8：50の5分間に講習の運営説明があります。

○会 場：（公社）大分県建築士会会議室

○形 式：DVD講習

○定 員：各回8名程度

○受講料：WEB申込 9,500円/

窓口・郵送申込 10,000円

※受講申し込みは、日本建築士会連合会HPよりお申込ください。

案内4

「建築士定期講習」の開催について

建築士事務所に属する建築士に3年毎の受講が義務付けられた定期講習です。令和6年度の受講対象者には4月上旬に（公財）建築技術教育普及センターより「受講案内のDM（お知らせ）」がご自宅宛てに送付されています。（前回3年前の講習を、（公財）建築技術教育普及センターで受講した方のみ）

【受講対象者】

前回受講年月日が令和3年4月1日～令和4年3月31日の所属建築士の方

【令和6年度の開催予定】

受付窓口を建築士会、建築事務所協会で担当してい

ますが、残りの講習は建築事務所協会の担当となりますので、お間違えの無いようお願いします。

【今後の開催予定】

○日 程

令和6年 10月22日（火）（協会）

令和7年 1月23日（木）（協会）

○会 場：大分職業訓練センター

※申込については、原則オンラインでのお申込となります。

※申込書のダウンロードについては、（公財）建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

<https://www.jaic.or.jp/koshuannai/teikikoshu/kteiki/index.html>

※（公財）建築技術教育普及センターでは、講義から修了考査まで全てをオンラインで完結する「オンライン講習」も実施しています。

詳細は、こちらをご覧ください。

オンライン講習(WEB講義+WEB修了考査) 建築技術教育普及センター

ホームページ (jaic.or.jp)

案内5

「既存住宅状況調査技術者講習(更新・新規)」の開催について改正宅建法の重要事項説明の既存住宅状況調査をするには、この講習会を修了し、登録されることが必要です。

【今後の開催予定】

○新規講習（年1回開催）

日程：8月に終了しました。

○更新講習（年1回開催）

日程：令和6年10月2日（水）

※申込方法等詳細は、（公財）日本建築士会連合会のHPをご覧ください。WEBからでも申し込みができますので、そちらもご利用ください。

【オンライン学習(新規講習・更新講習)のご案内】

・インターネット環境の整ったご自宅のパソコンや職場のパソコンにて受講可能です。修了考査の解答までオンラインで完結します。

詳しくは、連合会のホームページをご覧ください。

案内6

「<住宅リフォームエキスパート>増改築相談員研修会」の開催について

日 時：令和6年9月18日（水）

場 所：コンパルホール

受講料：新規 25,000円 更新 16,000円

※8月に支部を通じて案内済。更新対象者には文書を送信済。

案内7

「建築物グリーン化促進事業関連会議」等の開催について令和4年度より大分県からの委託を受け、環境に配慮した建築物の普及を図るため「建築物グリーン化促進事業推進小委員会」で検討を重ねているところです。

つきましては、次の日程で会議、研修等が開催されますので、ご案内いたします。

なお、第1回関係団体ネットワーク会議は、令和6年7月17日（水）に開催されました。

○第1回県民向けフォーラム

日時：令和6年8月4日（日）13：30～

場所：体験型子ども科学館O-Labo

○第1回技術者向け研修

日時：令和6年9月20日（金）13：20～

場所：荷揚町複合公共施設

○第2回関係団体ネットワーク会議

日時：令和6年12月頃

場所：未定

○第2回県民向けフォーラム

日時：令和7年1月頃

場所：未定

○第2回技術者向け研修

日時：令和7年2月頃

場所：未定

案内8

「建築甲子園 大分県大会選考会」の開催について工業高校、高等学校、工業高専（3年生まで）を対象とした、全国設計競技会の大分大会が次の日程で開催されます。今年度の課題は「地域のくらし ―まちに住む・地域に開く住まい」です。

日 時：令和6年10月19日（土）

場 所：iichiko総合文化センター 中会議室

案内9

「ヘリテージマネージャー養成研修」の開催について
令和6・7年度のヘリテージマネージャー養成研修を計画しています。現在調整中ですが、令和6年度は7回の研修を予定しています。プログラムの概要をご案内いたします。

調整がつき次第、追って詳しく再度ご案内いたします。

○第1回 開校式、オリエンテーション（特別聴講）

日時：令和6年10月12日（土）

場所：大分市iichiko総合文化センター

○第2回 歴史的まちづくりの現状

日時：令和6年11月21日（木）

場所：別府市鉄輪

富士屋Gallery一也百（はなやもも）

○第3回 歴史的建築物の技術と道具

日時：令和6年12月7日（土）

場所：大分銀行「宗麟館」

○第4回 全国伝建協九州ブロック研修会

（初日：座学）

日時：令和7年1月30日（木）

場所：杵築市

○第5回 全国伝建協九州ブロック研修会

（2日目：フィールドワーク）

日時：令和7年1月31日（金）

場所：杵築市

○第6回 登録文化財の登録までのノウハウを学ぶ

日時：令和7年2月15日（土）

場所：臼杵市斎藤家住宅

○第7回 伝統工法とは？（社寺・古民家）

日時：令和7年3月8日（土）

場所：J:COMホルトホール大分

19日(土) 建築甲子園 大分県大会選考会
22日(火) 建築士定期講習会（協会）/大分
24日(木) 岩手県建築士会との交流会
25日(金) 全国大会 鹿児島大会
27日(日) 大分市空き家相談会（坂ノ市）

11月

9日(土) おおいた建築セミナー（玖珠町）

13日(水) 監理技術者講習

21日(木) 第2回ヘリテージマネージャー養成研修

12月

5日(木) 二級・木造建築士合格発表

7日(土) 第3回ヘリテージマネージャー養成研修

19日(木) 第3回理事会

25日(水) 一級建築士合格発表

未 定 建築物グリーン化促進事業

第2回ネットワーク会議

令和6年1月

1月～3月 会員増強特別期間

15日(水) 監理技術者講習

23日(木) 建築士定期講習会（協会）/大分

26日(日) 大分市空き家相談会（ホルトホール）

30日(木) 第4回ヘリテージマネージャー養成研修

31日(金) 第5回ヘリテージマネージャー養成研修

未 定 建築物グリーン化促進事業

第2回県民向けフォーラム

2月

12日(水) 監理技術者講習

18日(火) 大分市空き家相談会

未 定 建築物グリーン化促進事業

第2回技術者向け研修

15日(土) 第6回ヘリテージマネージャー養成研修

3月

8日(土) 第7回ヘリテージマネージャー養成研修

会務行事案内【10月～3月】

※いずれも予定です。中止や延期・変更の場合があります。

10月

2日(水) 既存住宅状況調査技術者講習(新規)

12日(土) 第1回ヘリテージマネージャー養成研修

13日(日) 一級・木造製図試験

情報広報委員

担当執行役員 委員 長 副委員長 委員
〈豊後〉 高野 幸雄
〈宇佐〉 西胤 和弘
〈日田〉 野村 晋二
〈高田〉 後藤 憲二
〈別府〉 山本 健太郎
〈大分〉 今永 和浩
〈大分〉 後藤 悟郎
〈大分〉 藤原 次郎
〈大分〉 衛藤 祐介
〈大分〉 甲斐 啓大
〈大分〉 若松 加奈子
〈大分〉 佐保 望市
〈臼杵〉 佐藤 賢一
〈佐伯〉 後藤 堅一
〈玖珠〉 瀧石 雅一
〈日田〉 久恒 玄季
〈中津〉 日高 雄介

編集部員

部長 員 部員
〈中津〉 日高 雄介
〈高田〉 後藤 憲二
〈別府〉 小江 秀志
〈大分〉 江崎 保瑛
〈大分〉 樋田 亮
〈佐賀関〉 上田 健児
〈臼杵〉 松井 光徳
〈津久見〉 竹田 孝治
〈佐伯〉 長田 輔
〈佐伯〉 福井 大健
〈豊後〉 工藤 薫一
〈竹田〉 田島 禎一
〈竹田〉 江上 石谷
〈玖珠〉 瀧熊 高真
〈日田〉 熊森
〈宇佐〉 森崎

建築士おおいた

2024.9 No. 133

(非売品)

令和6年9月24日 印刷

令和6年9月27日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 AIG大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0617	豊後高田市高田 2145 番地 1 (株)中村建材店内	0978-22-2307
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0919	別府市石垣東 1 丁目 9 番 31 号 (株)幸建設内	0977-23-6231
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 AIG 大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0063	臼杵市大字望月 1029-11 藤澤建築設計内	0972-63-7589
津久見	879-2682	津久見市大字網代 5798-2	090-9076-7189
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-22-5008
豊後大野	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 1922-1 2F 高野建設一級建築士事務所内	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0026	日田市田島本町 4-1 野村一級建築設計事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0444	宇佐市大字石田 13 番地の 11 (株)さとう不動産設計事務所内	0978-25-6766
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会

2024 NO 133